

海技者という職業の魅力を紹介 ～ 神戸大学（海事科学部）2年生向け講演会を開催 ～

日本船主協会は、2008年7月に人材確保タスクフォースを設置し、商船系大学・高専や海技教育機構とも連携しつつ、優秀な日本人船員（海技者）確保のための様々な広報活動等を行っている。

その一環として、去る4月18日、神戸大学海事科学部2年生を対象に、同大深江キャンパスにおいて、海運業界の概要や海技者の業務等に関する講演会を開催した。



神戸大学海事科学部では、学生は2年次の後期から、海技免状が取得可能な学科をはじめとする3つの専門学科のいずれかに進むこととなっており、学生は2年生進級早々に学科配属希望を決める必要がある。

今回の講演会は、同学部2年生を対象に、わが国にとっての海運業の重要性と、それを担う海技者の役割やその魅力等について理解してもらうとともに、将来の職業選択の入り口となる学科選択の手掛かりとしてもらうべく開催したもので、2年生約200名が参加した。

講演会では、日本船主協会会員船社の海技者が講師を務め、まず、商船三井 人事部マネージャーの遠藤氏（機関長）から、世界経済と人々の暮らしを支える重要インフラである海運業の概要を説明するとともに、海運業は各国の経済成長に伴い成長する「成長産業」であることについて各種データを交えて紹介、更に、海技者の業務とキャリアパスや、海技者に求められる素養等について説明した。



講師・司会を務めた商船三井
遠藤氏（機関長）

続いて、日本郵船、川崎汽船、第一中央汽船、商船三井の現役海技者が、自らの体験を基に、海技者を志した動機や学生時代に準備しておくべきこと、本船での業務や生活、下船後の休暇の過ごし方に至るまで、海技者を将来の選択肢としてより具体的に意識してもらえよう、学生の目線に立って話を進めた。



(写真左から) 自らの体験に基づき話を進める日本郵船 竹下氏、川崎汽船 西海氏、第一中央汽船 関口氏



自身が海技者を志した理由について紹介する商船三井 川崎氏

講演会は、学生の興味が途切れることのないよう、硬軟取り混ぜた内容で話が進められ、学生達は時折笑顔を交えながら、真剣な眼差しで「先輩」方の話に耳を傾けていた。また、講演後の質疑応答では、「外国人船員とのコミュニケーションのコツ」、「実際、英語の能力はどの程度必要なのか」、「陸上勤務の際の業務内容」等、将来の道として海技者を意識した様々な質問が出された。

日本船主協会では、今後も船員教育機関と連携しつつ、優秀な日本人海技者確保のための諸活動を継続していく。

【2012年4月18日：神戸大海事科学部2年生向け講演会 講師一覧】

- 〔講師・司会〕 商船三井 遠藤 充 氏
 (人事部人事第二グループマネージャー／機関長)
- 〔講師〕 日本郵船 竹下 英世 氏 (一等機関士)
 川崎汽船 西海 晴旨 氏 (一等航海士)
 第一中央汽船 関口 裕哉 氏 (二等航海士)
 商船三井 川崎 正人 氏 (三等機関士)